

インド特許出願動向

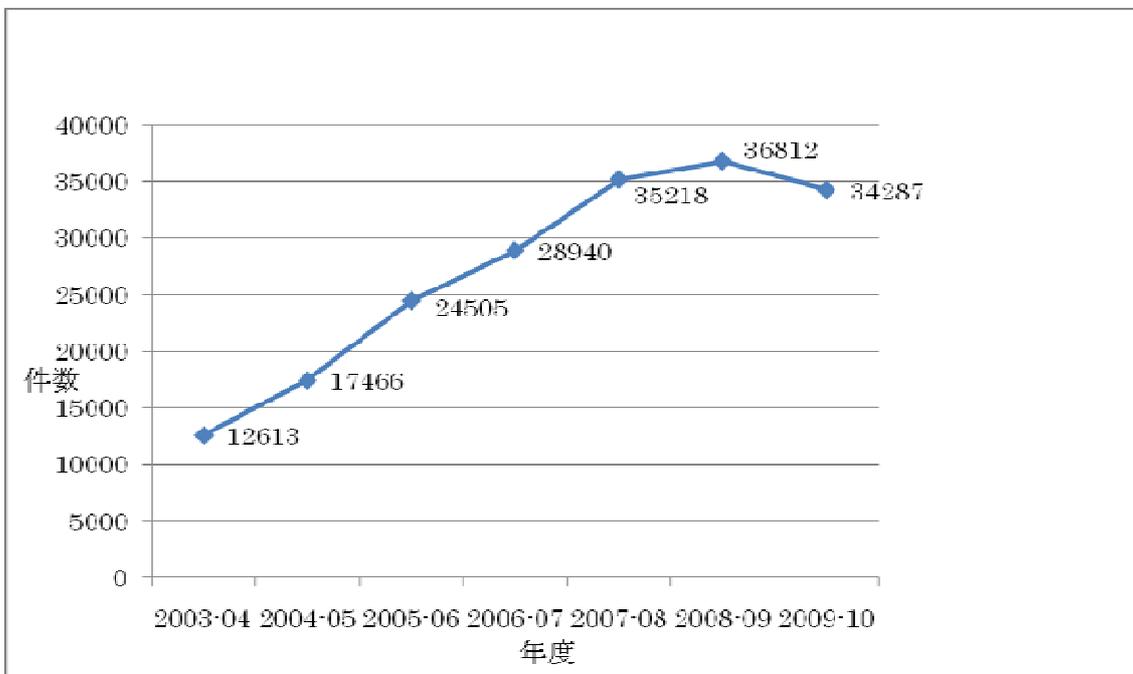
2011年7月26日

河野特許事務所

弁理士 河野英仁

(1)出願件数の分析

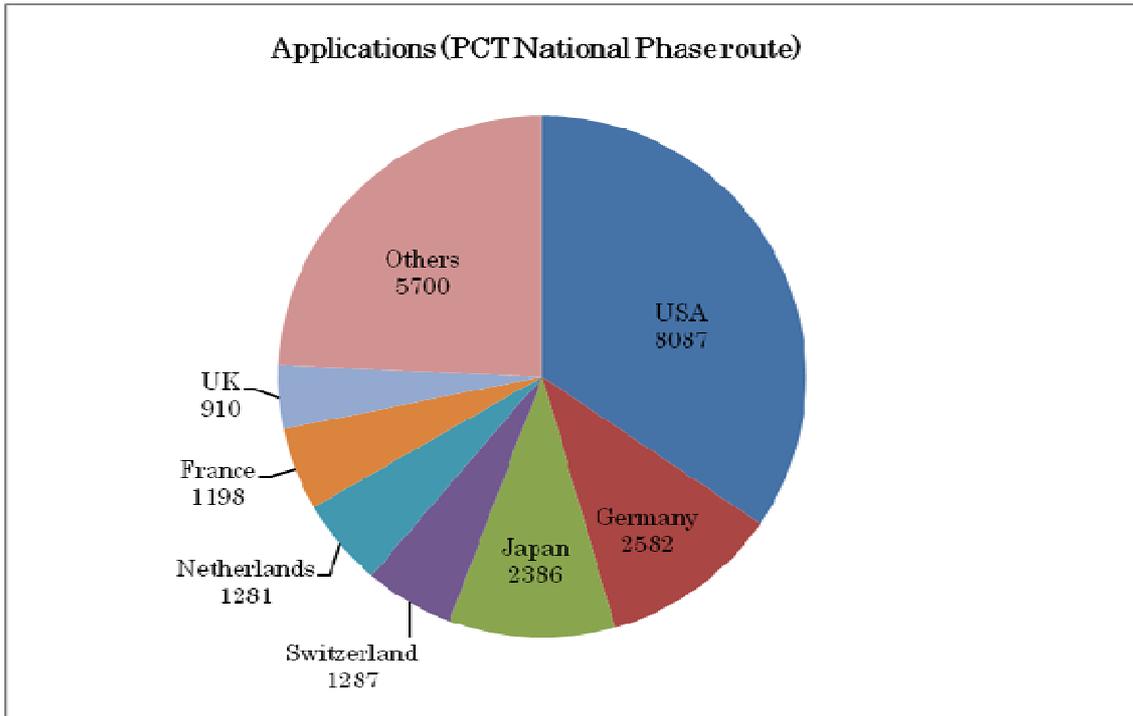
インドの特許出願件数は増加傾向にあるものの、40万件を突破しようとする中国と比較してその数は少なく、僅か3万件程度でしかない。参考図1は2003年から2010年までの出願件数の変化を示すグラフである。世界的経済危機の影響で昨年は出願が6.8%減少に転じた。



参考図1 2003年から2010年までの出願件数の変化を示すグラフ

(2)インド企業の出願件数は少ない

インド企業による出願件数は少なく約77%が外国からの出願である。参考図2はPCT経由でインドに国内移行された特許出願の国別の割合である。



参考図 2 PCT 経由でインドに国内移行された特許出願の国別の割合

米国からの出願が圧倒的に多く、ドイツ、次いで日本という位置づけである。米国から出願が多いのは英語による出願が可能であるということが理由の一つである。参考図 3 は企業別の出願ランキングである。唯一ソニーが第 3 位にランクインしているだけで、日本企業の存在感は薄い。

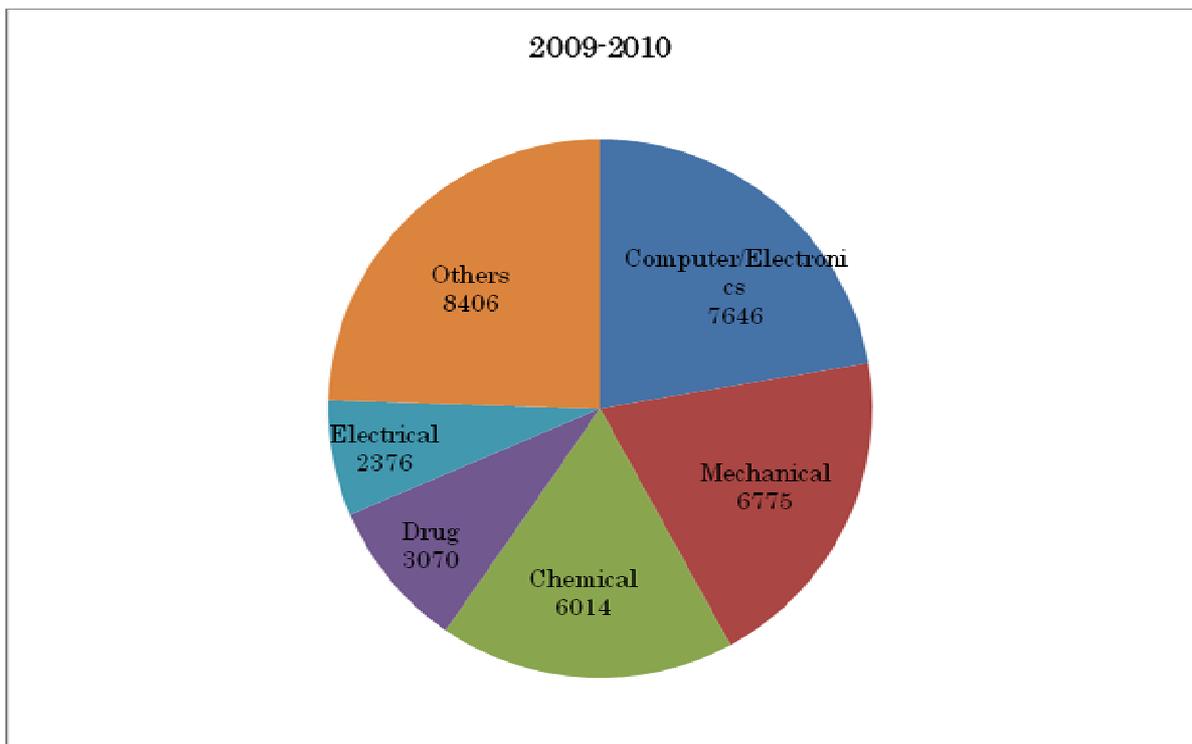
Top 10 Foreign Applicants

Sl. NO.	Name of Organization	Number of Applications
1	QUALCOMM INCORPORATION	852
2	KONINKLIJKE PHILIPS ELECTRONICS N.V.	725
3	SONY CORPORATION	296
4	NOKIA CORPORATION	267
5	ROBERT BOSCH GMBH	244
6	TELEFONAKTIEBOLAGET LM ERICSSON(PUBL)	242
7	SIEMENS AKTIENGESELLSCHAFT	234
8	BASF SE	222
9	MICROSOFT CORPORATION	220
10	NOVARTIS AG	203

参考図 3 企業別の出願ランキング

(3) コンピュータ・エレクトロニクス関連の出願が多い

最後に技術分野別の出願件数を分析する。参考図 4 は 2009 年から 2010 年に出願された技術分野別の出願件数である。



参考図 4 2009 年から 2010 年に出願された技術分野別の出願件数

コンピュータ・エレクトロニクス分野の出願が多く、次いで機械、化学、薬品、電気分野が続く。出願件数が増加しており、またコンピュータ、電気、電子分野の出願が数多く占めていることからこれらを審査する審査官もそれ相応の数をそろえる必要がある。しかしながら現在インド特許庁には 2010 年 3 月末の時点で審査官は 80 人しかいない。うちコンピュータサイエンス専攻の審査官はたった 6 人である。参考図 5 は技術分野別の審査官数である。審査体制の拡充を期待するところである。

BROAD TECHNICAL FIELD OF SPECIALISATION	NUMBER OF EXAMINERS
Biochemistry	5
Bio-Technology	9
Chemistry	20
Civil Engineering	2
Computer Science	6

Electrical & Electronics Engineering	13
Mechanical Engineering	6
Metallurgy	2
Microbiology	12
Physics	3
Textile Engineering	2
TOTAL	80

参考図 5 技術分野別の審査官数

以上